



中 雨ニモマケズ

4月26日（火）

「福中校歌の味わい」

校長 原 直樹

新年度のスタート、毎日のお昼の放送では、福中の校歌が流れています。私は、単純に、校歌を大切にしている学校はよい学校だと思います。何かあれば校歌を歌う。校歌に愛着をもつ。大人になって校歌を聴いて懐かしむ。校歌とはそういう存在であってほしいと思います。

四	三	二	一	福岡中学校校歌
丘の朝日に照り映えて 銀嶺かがやく二ツ森 高き理想に燃え立ち 平和に本の礎を 築きあげなん高らかに	松吹く風の爽やかに 黄金花咲く稲田道 誠の道を学びつつ 切磋琢磨の幾春秋 あがる成果の高らかに	若葉は燃ゆる福岡の 紺碧深き付知川 自由の泉湧き出でて 若鮎おどる学園の 血は燃え意気は高らかに	春曙の高陵に 希望の光輝きて 緑あやなす若草の 伸びゆく力たくましく 共に歌わん高らかに	作詞 安保 生 作曲 安保昭夫

作詞をした安保生氏と作曲をした安保昭夫氏は実の父と息子です。校歌を親子で作詞作曲したなんて、他にはなかなか聞いたことがありません。昨年、福岡公民館の杉江館長さんに、校歌についてのいろんな資料を頂きました。資料を読む中で、趣ある福中校歌に興味を抱かずにはいられませんでした。

昭和18年に、福中の前進である福岡村農業公民学校が新設され、当時の奥田穂浪校長が、福岡の教育の中心地となるこの馬場平を「曙」と名付けました。福中校歌一番の出だしは「春 曙の…」です。その後二番、三番、四番と、じっくり歌詞を読むと、「春」「夏」「秋」「冬」と四季が描かれています。まさに枕草子「春はあけぼの」です。この曙平で元気に学ぶ福中生が、福岡独自の「春はあけぼの」として描かれているのです。なんて、しゃれているのでしょうか！

先日、本校の音楽科担当、中井教諭が、二番の出だしについて疑問を抱きました。「若葉は燃ゆる福岡の」の「燃ゆる」は「萌ゆる」ではないかという疑問です。植物の場合「萌ゆる」の方がふさわしい感じがします。実際には若葉は燃えませんし。私は、早速杉江公民館長さんに質問に行きました。すると、「燃ゆる」が正しいとのことでした。この歌詞が、二番であることにその理由があります。二番は「夏」です。もし「春」だったら「萌ゆる」が当てられたかもしれません。しかし、エネルギーがみなぎり燃え上がる「夏」のイメージはやはり「燃ゆる」だと教えていただきました。なるほど。私は、中井教諭と共に、福中校歌のさらなる奥深さに感銘を受けました。

